

Story
3

理学博士・東京大学大気海洋研究所准教授
阿部彩子さん

分野も世代も超えて 協力し合えることに 深い喜びを感じます



多くの仲間を支えられて
生み出された「仮想地球」

自然科学の分野で優れた業績をあげた女性科学者に贈られる「猿橋賞」を今年受賞した阿部さん。その研究活動の原動力となっているのは、「自分が住む地球について知りたい」という素朴な想いでした。
「約10万年の周期で拡大と縮小を繰り返している氷床（地表面部分を覆う

大きな氷の塊）の、変動メカニズムを解明するのが私の研究内容です。科学＝実験、というイメージがあるかと思いますが、私の場合は、実際に地球をつくらせて実験することはできないので、コンピュータのなかで地球の成り立ちを再現し、数値実験を行います。太古の時代の気候を研究することで、将来にわたる気候変動を予測しようというわけです」
気が遠くなるような壮大なスケールの仕事ですが、阿部さんにとって、「小さな達成感や感動を、日々積み重ねていく感じ」なのだそう。「ひとつひとつの事柄を『なるほど、そうか』と確認し、それを繰り返して、大きな成果につなげていく。研究とはそういうものです。それよりも、私が感動するのは、自分の仕事は、多くの人の研究があつてこそそのものだ、ということ。コンピュータのなかに仮想地球をつくることは、私ひとりの力では決してできません。さまざまな専門家―雲のこと、海のこと、惑星のことなどを研究している人たちの協力を得ながら、地球に起こりうる現実を再現していく。各々がふだんはバラバラに研究していることを、手を組み、力を合わせ



撮影 / 唐澤光也(パイルドライバー)

これに 感動!

ライバルたちが集まり
国を越えて問題に取り組む
第5次IPCC(気候変動に関する政府間パネル)評価報告書の執筆者会議に出席。モロッコに各国の研究者が集まった。「2013年末の発行に向け、何度も会議が開かれます。ふだんはライバル関係にある研究者も一丸となり、地球が抱える問題と研究成果の精査をします」

て、コンピュータ上で重ね合わせる、共同作業。そのことに、私はいつも感謝し、感動しています」
「猿橋賞」の受賞について、阿部さんはこんなふうに語りました。
「組織を超えて協力してくれた多くの仲間が、受賞のお祝いに駆けつけてくれました。皆の存在があつてこそ、私の研究が成り立つんです」

あゆみ ●東京大学で地球物理学を専攻、スイス連邦工科大学で理学博士号を取得。「氷床」の変動を数値計算で再現することに世界で初めて成功し、今年、第32回猿橋賞を受賞。3児の母。